

いまだぎの学校図書館事情

田園調布学園中等部・高等部 司書教諭 二井 依里奈

司書 松井 由記

校内外でのびのびと交流する 本を架け橋に

1926年に創立した東京都世田谷区にある女子中高一貫校です。生徒数は約1200人。建学の精神「捨我精進」のもと、興味に依

様々なコンクールや近隣の美術館・映画館等の催しも紹介されています。

■興味を広げる
図書館で最近人気があるのは、豆本作りです。普段

「知の泉」生徒が教室移動の時に必ず通るフロアが図書館の一部に取り込まれており、いつでも誰でも出入りできます。通るだけで授業で紹介された本や図書委員が作った作家紹介コーナー等の展示が目飛びこんできます。中に入ると2階と3階の部分が吹き抜けになっており、壁の一面全体は、ガラス張り

■「好き」をつぎつめる
図書委員会では頻繁にビブリオバトルをしており、都大会にも出場しました。また、国際貢献に興味のある生徒は朝日地球会議2019など外部の国際会議にも参加しました。他校の図書委員とともに行う「サークル読書会」は四十年以上の歴史があり、今年は本校で主催します。同じ本を読み女子校も男子校も共に語り合うことのできるの貴重な機会です。生徒は、読み方は人様々であることを体得し自信をつけています。

はあまり図書館に來ない生徒も噂を聞きつけて参加しました。表紙の布、花布、しおりひもの色を照らし合わせて、どんな本を作ろうか考える姿は真剣そのもの。製本が始まると、「あ、つけ過ぎた(ポンド)」、「いい感じ。インスタ映え!」と学年クラスを超えて、わいわい声が飛び交いました。不思議なことに、一冊作ると必ずもう一冊作りたくなるようです。当初2日間の予定が、生徒からのリクエストにより4日間連続の開催となり、昼休憩や放課後にのべ30人が豆本を作りました。

高橋生直木賞にも参加しています。選考会は「本への愛を叫ぶ」場だと生徒は語ります。作家へのインタビューも、アポイントメントを取るところから生徒が

高橋生直木賞にも参加しています。選考会は「本への愛を叫ぶ」場だと生徒は語ります。作家へのインタビューも、アポイントメントを取るところから生徒が

高橋生直木賞にも参加しています。選考会は「本への愛を叫ぶ」場だと生徒は語ります。作家へのインタビューも、アポイントメントを取るところから生徒が

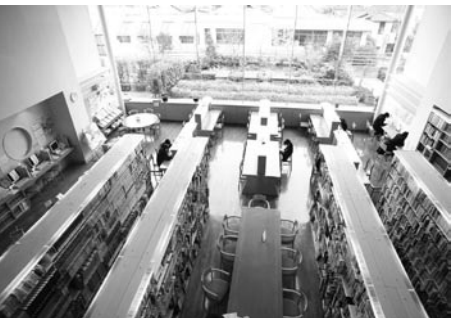
取り組んでいます。先日は『ビブリア古書堂の事件手帖』の三上延さんにお会いでき、執筆の舞台裏をお聞きすることができました。また、「ニューヨーク公共図書館」の映画会も催しました。保護者も共に観て図書館のあり方を考えました。これらの取り組みを通して生涯にわたって上手に図書館を使い、そして、世の中の動きをとらえ、自分事として考えて行動できるような生徒を育てています。

* *

貸出ランキング

2019.4/1~2020.1/16

1. 『オツベルと象』…宮沢賢治 (全国学校図書館協議会)
2. 『平安女子の楽しい生活』…川村裕子(岩波書店)
3. 『レモンの図書室』…ジョー・コットレル(小学館)
4. 『ある晴れた夏の朝』…小手鞠るい(偕成社)
5. 『しあわせの牛乳 牛もしあわせ! おれもしあわせ!』…佐藤慧、著 安田菜津紀・写真(ポプラ社)
6. 『空気を』を読んでも従わない生き苦しさからラクになる』…鴻上尚史(岩波書店)
7. 『サイド・トラック 走るの二ガテなぼくのランニング日記』…タイアナ・ハーモン(評論社)
7. 『注文の多い注文書』…小川洋子(筑摩書房)
9. 『ぼくたち負け組クラブ』(講談社)…アンドリュウ・クレメント
10. 『ちはやふる5』…末次由紀(講談社)
10. 『ちはやふる4』…末次由紀(講談社)



図書館の全貌



ビブリオバトル



豆本作り



「ニューヨーク公共図書館」映画会